

特集

ライターSの患者さんインタビュー①

「向上心があり熱心なスタッフに感心！」

2006年に治療を開始、現在リテーナー中というSさんにお話を伺いました。インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページをご覧ください。

◆矯正治療を始めようと思ったきっかけは？

—大学生の頃から通院していた歯医者さんに、就職して地元を離れてからも定期的に通っていたのですが、その歯医者さんに噛み合わせが悪いので矯正をしたら？と勧められました。しかし治療を始めるとなると現在の住まいに近い医院の方がいいと思い、インターネットで矯正歯科を探し始めました。

◆ひるま矯正歯科を選んだのは？

—ホームページで清潔そうな印象を受けたことや設備が整っているところが気に入りました。実際に医院に行ってみると先生方が皆お若いので大丈夫かなと一瞬考えたのを覚えています。もう少し年配の方が経験豊富なんじゃないかなという先入観があったんですね。でも症状や治療についての説明をしっかりとしてくださったので、こ

なら大丈夫だと思いました。

◆治療はいかがでしたか

—装置を着けていると、口の中は切れるし、モノははさまるし苦労したなと思います。矯正の装置に輪ゴムをかけた時は驚きました。それまで見たこともなかったから、誰がこんな考えたん

だろう？と思いましたがね(笑)。でも慣れるのに時間はかからなかった。治療前は、装置を着けたらずっと不自由なんだろうなと思っていましたが、そうでもなかったというのが驚きでした。

◆スタッフの印象は？

—皆さんとても熱心です。歯科衛生士さんが「新しいブラッシングを勉強してきました」「歯石のチェック方法を勉強してきました」と仰るので、ちゃんと衛生士さんも新しい技術を採り入れるため勉強しているんだなと本当に感心しました。「ひるまだより」でもセミナーに行ったら載っていました。先生が若いから心配だった…と先ほど言いましたが、若い先生だからこそ向上心があって、それがひるま矯正歯科の良さなんじゃないかなと思いました。

点数をつけるなら100点！と言っSさん。ひるま矯正歯科に行くこと癒されるので用事がなくても行きたいそうです！(S)



Sさんの症状について解説します

●初診時の診断「左側第2大臼歯の交叉咬合を伴う Angle class I 叢生症例」

一般的に叢生の場合は小臼歯を抜歯して治療を行いますが、初診時側貌において口唇の突出感は顕著に認めなかったこと、歯列が狭窄して(歯列の幅が狭くなって)叢生になっており、さらに歯槽骨(歯を並べる骨)の幅が比較的広かったため非抜歯(下顎の親知らずは抜歯)で治療を行いました。しかしながら、保定期間中に叢生が戻る事があればやはり抜歯による治療が必要となる可能性がある事を診断時にお話して治療開始。

歯を動かす動的な治療期間は約24ヵ月と予想して治療を開始し、実際には25ヵ月かかりました。現在は保定中で、噛み合せの状態は安定しており抜歯による再治療の必要は無いと考えています。

非抜歯症例なので第2大臼歯遠心(奥側)が僅かに歯肉に埋もれるような状態になっているため保定期間中にPMTCやスクレーピングを注意深く行ない歯周病やむし歯が進行しないように注意しています。



<治療前>

<治療後>